

2. 経 営 成 績

(1) 当中間期の業績の概況

我が国経済は一部に景気回復の兆しが認められるとは言え、個人消費などの低迷が続いており、産業界は総じて厳しい経営状態にあります。とりわけ医薬品業界は、医療費適正化諸施策の浸透などがあって、更に厳しい事業環境に置かれております。

当社は、このような状況の中で新製品の投入や新市場の開拓など、積極的な営業活動を展開しました結果、売上高は1,388億7千1百万円余（前年同期比19.6%増）をあげることができました。

製品種別の売上高は次のとおりであります。

一般用医薬品等	990億円余	（前年同期比 26.3%増）
家庭用品および公衆衛生用剤	24 "	（ " 28.1%減）
医療用医薬品	297 "	（ " 9.5%増）
その他	42 "	（ " 33.7%増）
工業所有権等使用料収益	33 "	（ " 13.8%減）
合 計	1,388 "	（ " 19.6%増）

売上高の内訳を見ますと、一般用医薬品等では新製品の壮年性脱毛症における発毛剤「リアップ」と規制緩和に伴いコンビニエンスストアなどの一般小売店市場へ販路が拡大した「リポビタミンD」が順調でしたが、風邪薬「パブロンシリーズ」は微減、胃腸薬もマイナスでした。

家庭用品および公衆衛生用剤は、夏季商品の捕殺虫剤や栄養素食品「サントジェン」などが落ち込み、不振でした。

医療用医薬品では、マクロライド系抗生物質「クラリス」が順調に続伸しましたほか、末梢循環改善剤「パルクス注」も善戦いたしました。

利益面につきましては、前記のような売り上げの増加とともに、売上原価率および販管費比率の改善などによって、経常利益486億5千3百万円余（前年同期比42.6%増）、中間純利益272億9百万円余（前年同期比68.6%増）と過去最高の利益をあげることができました。

(2) 通期の業績の見通し

当下半期は、一段と厳しい事業環境が予想されますが、引続き積極的な営業活動の展開および経営全般の効率化を推進することなどにより、通期売上高2,700億円、経常利益870億円、当期純利益480億円を見込んでおります。